

平成27年度第2回行政改革推進委員会概要報告

財務部行政改革室

- 1 開催日時 平成27年8月28日（金） 14:00～16:30
- 2 場 所 柏崎市役所教育分館3階 201会議室
- 3 出席者 ○推進委員（五十音順）
石坂委員、板羽委員、小栗委員、高野委員、竹内委員、
土田委員、徳永委員、西巻委員、根立委員、橋本委員（委員長）
○外部評価支援事業受託者（コーディネーター）
有限責任監査法人トーマツ 宗和 暢之氏
○事務局
箕輪財務部長、政金行政改革室長、高橋係長、宮嶋主事

4 概要

外部による行政評価について、コーディネーターから委員に説明し、今年度に内部評価を実施した24事業の中から、外部評価の対象となる4事業及び予備として1事業を選定した。なお、10月に開催予定の次回委員会において、コーディネーターからの支援を受けながら、選定した事業の外部評価を実施する。

外部評価対象事業

- ・ No.4 空き家対策事業（市民活動支援課）
- ・ No.11 看護師就職支援事業（国保医療課）
- ・ No.12 コレクションビレッジ管理運営費（観光交流課）
- ・ No.19 都市景観形成推進事業（都市政策課）

予備として、No.16 大学生就職促進事業（商業労政課）

→委員会後に、所管課に日程を確認したところ、No.11の国保医療課が議会決算特別委員会の日程と重なっているため、出席の都合がつかなかったことから、外部評価対象事業は、予備として選定したNo.16に変更し、No.4、No.11、No.19、No.16の4事業とした。

主な選定理由等

○No.4：空き家対策事業

空き家を地域の集会場にするなど活用できないか。若者に空き家を提供するなど利活用方法を含めて総合的に対策していく必要がある。

○No.12：コレクションビレッジ管理運営費

成果が上がっておらず、課題が多い。大胆な発想が必要である。施設の現状を知りたい。企画展をしていることを知らないため、PRの充実が必要でないか。

○No.19：都市景観形成推進事業

景観形成が具体的に我々の住みやすさにどう繋がっていくのかを知りたい。事業費は大きいですが、内容がよく分からない。

○No.16：大学生就職促進事業

市内2大学は、市外からの学生が多く、市内への就職率が低い。市内の大学に通い、地元就職するという道筋を作るために、子どもの頃から地元大学に愛着を持つ仕組み作りが必要であると考え。市から大学に援助をしているが、効果はどうか。

5 委員会の要旨

(1) 開会

(2) 財務部長あいさつ

(3) 議事

ア 外部による行政評価の実施について（コーディネーターから外部評価の選定方法を説明）

委員：評価対象は、法定事業より市単独の事業を選んだほうがよいとあるが、市単独の事業を見分け方法はあるか。

宗和氏：法定事業に市が独自で追加や上乘せしている場合などもあり、単純に見分けられない。事業費において、市単独の事業は一般財源が主であり、国や県からの特定財源が多い事業が法定事業であると考えていただければよい。

委員：No.7のスマートコミュニティ事業において、平成26年のコストは、一般財源が主であるが、1次評価に環境省の補助事業を活用しており、市の負担は低いと記載がある。この事業は、法定事業なのか。

財務部長：市単独の事業である。市の施設に環境配慮型の設備導入が可能かの調査を一般財源で実施している。今後の事業展開において、環境省の事業を利用して設備導入ができれば、市の負担は軽減されるということである。

なお、No.21及び23以外は、一般財源による市の単独事業である。

行革室長：対象の24事業に法定事業はない。

委員：市が行った内部評価の結果が妥当だと思えば、委員として外部評価しなくても、この評価結果がそのまま反映されていくと考えてよいか。

財務部長：内部評価の結果を見て妥当だと思う事業は、選定対象から外し、内部評価が違うのではないかと、改善の余地があると思う事業を選定していただきたい。

委員：事業を選定するにあたり、事業内容をよく知らず、どこを改善していいかわからないため、委員の興味がある事業を選定しがちになると思うがどうか。

宗和氏：外部評価は、様々な分野での経験を持つ委員が集まって、それぞれが関心のあつた分野や専門分野の視点で事業に注目し、意見交換することが元々の趣旨である。感心のある事業を選定していただければと思う。

委員：昨年度に外部評価を試行実施した際は、委員同士が同様の意見であったとしても、評価が拡充と見直しで分かれるなど、評価の基準が分かりづらかった。今回は、評価基準が変わっており、現状維持が3段階に分かれている。これは、財政面を含めた評価基準と考えてよいのか。

事務局：評価基準として、拡充及び縮小は、現在の事業内容で成果を拡充又は縮小していくものとし、新たに追加した見直しの中の拡充・現状維持・縮小は、事業内容を見直した上で、成果を拡充・現状維持・縮小していくものである。

財務部長：投入コスト、予算等の事業費を含めて判断していただきたい。

宗和氏：例えば、縮小と評価するにしても、事業費を縮小するのか、サービス水準を縮小するのかという話になる。一般的には、事業費を縮小すればサービス水準も縮小していくと思うが、事業費とサービス水準に分けて議論すると丁寧である。

イ 対象事業の選定

外部評価を希望する事業について、委員全員が第1希望から第3希望までの3つの事業とその理由を発言した。全委員の発言後、事務局にて結果を集計し、希望者の多かった上位7事業について、意見交換を行った。協議の結果、上位である4つの事業を選定

し、予備として1事業を選定した。結果は、外部評価選定表のとおり。

委員：県や国の補助事業は、継続していったほうがよいと思い評価しづらい。

財務部長：例えば、福祉事業は、施策として重要な事業であり、国や県の補助率も高く事業費も大きいですが、全国的にはほぼ同一の事業内容である。市単独事業の方が事業の自由度が高いため、評価し甲斐はあると思う。

○各委員の希望事業及び理由

※詳しい内容は、別紙一覧表のとおり

委員：柏崎の今後を考えたときに、定着人口や若年人口を増やすということと、未来を担う子どもに係ること及び事業に掛かったコストの視点で選定した。

委員：柏崎の魅力発信の観点から選定した。

委員：興味や感心がある事業、専門である教育関係の事業を選定した。

委員：費用対効果と興味があるものを選定した。

委員：委員として、自分がよく分からない事業を選定していいものかどうかと悩んだが、議論してほしい事業を選定した。

委員：市の今後のことを考え、当面の問題に対する事業と将来に繋がっていく事業を選定した。

委員：自分が住んでいる地域に関連している事業を選定した。

委員：地方戦略の中で人口減少や地元定着が重要となっており、柏崎に働く場があることで地元定着する理由の1つになると思い、雇用の観点で選定した。

委員：内部評価を見て、もっと知りたいと思った事業を選定した。

委員：利活用や有効利用の観点で選定した。

ウ 柏崎市公共施設等総合管理計画（素案）について（事務局説明）

素案に対して意見等があれば、9月18日（金）までに行政改革室に連絡をいただきたい。

エ その他

次回、第3回の委員会である外部評価会議は、10月6日（火）及び7日（水）の2日間に分けて開催する。

(4) 閉会